

関係各位

高知県病虫害防除所長

令和4年度病虫害発生予察技術情報（第5号）の送付について

普通期稲における紋枯病の発生について

7月中下旬に実施した普通期稲の巡回調査において、県中央部および西部で紋枯病の発生が確認され、中央部では病斑が上位葉鞘まで進展しているほ場も見られました。発生面積は中央部で30.4ha(平年0.8ha)、西部で35.8ha(同12.1ha)と、過去10年で2番目に多い発生となっています(表1)。本年は7月に曇雨天が多く、発病に好適な高温、高湿度条件が続いたため発病が増加したと考えられます。今後も、高温、高湿度条件に遭遇すると紋枯病がさらに進展、拡大する恐れがありますので、ほ場の発病状況と今後の気象条件に十分注意し、下記の事項を参考に適切な防除を実施して下さい。

記

「防除対策」

- 1 紋枯病は、止葉葉鞘まで進展すると収量に影響します(写真1)。既に発病が見られるほ場では、上位葉鞘へ進展しないよう速やかに薬剤防除を実施して下さい。
- 2 現在紋枯病の発生が見られなくても出穂前後に発病する場合がありますので、発生に注意して下さい。上位葉鞘への進展が見られた場合には薬剤防除を実施して下さい。なお、薬剤防除の適期は穂孕期～出穂期です。
- 4 薬剤防除については、高知県病虫害防除（高知県農薬情報システム内「配信ファイルの閲覧」）に掲載、<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/kochi>）を参考にして下さい。
- 5 薬剤防除を行う場合は、周辺作物への薬剤の飛散に十分に気をつけて下さい。

表1 普通期稲における紋枯病発生状況(7月19～26日調査)

地域	発生面積(ha)		栽培面積
	本年	平年	
東 部	0.0	2.9	387
中央部	30.4	0.8	1,242
中西部	0.0	1.8	2,327
西 部	35.8	12.1	894
県合計	66.2	17.6	4,850



写真1 止葉葉鞘まで病斑が進展